

## 国民経済計算調査会議総会

1. 日時 平成16年10月19日(火) 14:30～16:00

2. 場所中央合同庁舎第4号館共用第3特別会議室(2階226号室)

3. 出席者

(国民経済計算調査会議委員)

黒田議長、勝委員、作間委員、篠塚委員、鈴木委員、首藤委員、高木委員、辻村委員、  
時子山委員、中村委員、深尾委員、ホリオカ委員、吉川委員

(経済社会総合研究所)

香西経済社会総合研究所長、大守経済社会総合研究所次長、荒井総括政策研究官、西村  
総括政策研究官、杉田総務部長、飛田国民経済計算部長、大貫企画調査課長、長谷川国  
民支出課長、甘利国民生産課長、百瀬分配所得課長、二上国民資産課長、川島価格分析  
課長、佐藤地域・特定勘定課長

4. 議事

- (1) 基準改定課題検討委員会の中間報告について
- (2) 審議体制の拡充について
- (3) 会議の公開について
- (4) その他

5. 配布資料

- (1) 連鎖方式に関する論点と議論の主なポイント
- (2) 連鎖方式に関する論点と議論の主なポイント 参考図表
- (3) 審議体制の拡充について
- (4) 国民経済計算調査会議の公開について

## 議事概要

### 【基準改定課題検討委員会の中間報告について】

(冒頭、GDPの実質値・デフレーターの数式について連鎖方式に移行することが望ましい旨の中間報告について、基準改定課題検討委員会より報告)

検討委員会においては、連鎖方式への移行という結論に達したが、同時に、オイルショックのような期間を含む場合の長期遡及の問題、季節調整の問題など、様々な課題が残されているという点についても意見の一致をみた。

指数算式に関しては、3方式の試算結果について報告があり、ほとんど違いがないということは議論したが、どの方式が望ましいかについては結論に達していない。

在庫品増加については、価格デフレーターとして残高デフレーターを利用しているということか。また、フローのデフレーターとの整合性は図られているのか。そのとおりであり、フローのデフレーターとは整合的である。

一般に在庫ストックにはキャピタルゲイン/ロスが生じ、SNAでは調整勘定が設けられている。こうした関係で、ストックとフローでデフレーターが異なることはどう考えるべきか。

在庫は、簿価から時価への変換、いわゆる在庫品評価調整を行っている。

個々の品目のレベルまで降りれば、残高(ストック)デフレーターとフローのデフレーターには違いがないはず。残高デフレーターは集計したレベルの概念。

在庫については、「先入れ先出し法」、「後入れ先出し法」等の棚卸評価方法の違いもあり、個々の品目レベルでも、問題が残る。これに集計の問題も絡み、複雑になっている。

欧州、米国、カナダでは集計品目数にかなり差があるが、日本で連鎖方式を導入しようとする場合、基本的にどのレベルの品目から適用することになるのか。

400品目×需要項目数、すなわち、2000~3000品目程度ということになる。

欧州諸国における供給・使用表について、産業別デフレーターを連鎖させて求めたGDPデフレーターと、需要側から求めたGDPデフレーターとの整合性のチェックは行われているのか。

生産、支出、分配の実質面での統計的整合性が欧州諸国の狙い。

大学の学部レベルの講義で説明できる程度の分かりやすい方法が望ましい。

本会議として、我が国でも連鎖方式の導入が望ましいことについてコンセンサスが得られたと思う。

連鎖方式への移行という大きな結論をいただいたので、事務局で準備を進めていくことになる。これまで、平成17年末の基準改定時を目途に連鎖方式へ移行することの是非について基準改定課題検討委員会において議論いただけてきたところだが、スケジュールについても早めることができるか検討させていただきたい。移行に当たって具体的に詰めなければならない問題について検討作業を進めさせていただいた上で、方向性について基準改定課題検討委員会及び総会の委員の皆様にお諮りしたい。

次回の基準改定時には実質化方式に関して連鎖方式を採用することが望ましいこと、また、採用の時期については、来年の基準改定の時期をまたずに導入することを考えていただきたいということを、本会議の提言としたい。

- ・従来「基準改定」と呼んできた作業の中では、大規模統計の改定に合わせたパラメーターや推計方法等の見直しと、デフレーター基準年次の変更（いつの価格で評価するかという問題）という2つの作業が行われてきた。連鎖とは基準年次を毎年変えることに相当するので、後者の作業の前倒しは論理的には可能という面が出てきたと理解している。
- ・同時に、特にQEについては、例えば「法人企業統計季報が出た5日後に発表する」という限られた時間の中でどれだけ作業がこなせるかということも、大きな問題である。したがって、もう少し時間をいただいて、内部的にテスト・ランを行うなど様々な検討をした上で考えさせていただきたいが、可及的速やかにということであれば、その気になってやらざるを得ないだろうと受け止めている。

**【審議体制の拡充について】**

（事務局案が了承された。）

**【国民経済計算調査会議の公開について】**

（事務局案が了承された。）

なお、本議事概要は速報版のため、事後修正の可能性があります。